

スキーすく〜る

12月26日(木) ~ 12月30日(月)

IN 白馬村飯森・五竜

	午前	午後	夜
1日目			関西を出発
2日目	スキー講習①	スキー講習②	屋内研修
3日目	スキー講習③	スキー講習④	休憩
4日目	スキー講習⑤	スキー講習⑥	お土産購入、白馬を出発
5日目	関西到着・解散		

一、二日目：

今回のスキーすく〜るは今までで最大の人数にて開催しました。高速バスに乗るまでの移動や待機時間では、ワイワイと元気が有り余っていたのですが、車内ではスイッチが切れたかのようにぐっすりと眠りにつかれました。目が覚めると一面雪景色に変わっており、朝から歓声が上がっていました。バスが目的地に到着し、早速お世話になる民宿「北中屋」さんに向かいました。朝食を済ませ、意気揚々とスキーの格好へと準備をしました。滑走するゲレンデのコンディションは良く、クラスごとに分かれ、研修が始まりました。エキスパートクラスの「クジラ」、上級クラスの「イルカ」、中級クラスの「さんま」、初心者クラスの「めだか」と、クラスごとに行う内容や求める技術は違いますが、皆やる気モード全開でした。めだかは初めてということもあり、とにかく板で滑り、ブレーキすることを重点的に取り組みました。さんまは、速さの緩急、こけずにバランス良く滑走することを重きにおきました。イルカは、自在に滑れる事を確認し、自分に足りないものを見つけ、改善していきました。クジラは、技術面を磨き、ひたすら技術を追求していきました。どのクラスも夕方には上達が明らかになるほど成長されていました。一人一人、自分に必要なものに手ごたえを感じたようです。



三日目：

朝一番から「スキー！！」と、元気な声が屋内に響いていました。準備を済まし、いざスキー場へ！昨日の学んだことを少しでも活かしたいという強い想いがヒシヒシと伝わってきました。昨日のクラスより変動があり、クラスが上がった子達はとても喜んでおり、現状維持の方々も頑張れば上がれるという希望に向けての意思が分かりました。午前は、昨日の復習と次のステップへ進みました。朝から降雪と風の影響でコンディションが悪かったのですが、それでも必死に頑張っている姿から本当に上手になりたいという、気持ちがとても伝わってきました。午後からは、少し難易度の高いコースに行きました。斜面も急になってきたため余裕が出ていた気持ちが、一気に緊張へと変わりました。天候が崩れてきたので、予定より早く終わらせ民宿に戻りました。夕食後は、明日の最終に備えて各部屋で休憩時間を設けました。疲れて寝るのかと思いきや、トランプをしたり、本をみんなで読んだり、テレビを観たり、就寝時間ギリギリまで楽しんでいました。



四日目：

本日が最終日。頑張ってきた力を見せる集大成の日です。天候にも恵まれ、絶好のスキー日和です。研修三日目となると、皆手慣れた感じが、こちらから特に言わずとも動いておられました。このように細かいところに成長が見られます。各クラス、初日からは予想出来ない程成長されており、内容のハードルも気がつけば高くなっています。それを様々な想いと葛藤されながらも乗り越えていこうとする姿勢が何より素晴らしく、心の成長に繋がっていると実感します。終わりの時刻に迫るにつれ、「もう一回！」という声が上がりました。しかし、スキーの世界ではそれが後悔に繋がるとベテラン講師の方から聞いています。なので、やりたい想いをぐっと堪えてもらい、是非とも次回に活かして欲しいです。施設に戻り、着々と出発の準備を進めました。スキーだけではなく、生活面でもテキパキ動く事が反映されており、改めてスキーの偉大さを知りました。民宿を出発し、バスステーションにてお土産購入タイムを設けました。みんな、この時間を本当に楽しみにされていたようで、リーダーの手を引っ張り、胸を弾ませている姿があちこちで伺えました。皆、納得のいくお土産を買うことが出来たようです。後は、バスに乗って帰るだけです。乗車すると一人、また一人と寝静まっていき、全員夢の中へ入っていきました。



<キャンプ総括>

今年で5回目となるスキーキャンプ、過去最大の人数で開催することができました。一つ大きな課題は、人数が増えることにより、今まで提供出来ていたキャンプの質を下げることでした。今までご参加いただいていた方々も心配されている事でしたが、より細かいクラス分け、そして各クラス明確な目標を定める事で今まで以上に質の高い研修が出来たと思います。何より参加者一人一人がスキーに対して遊びではなく、真剣に取り組んでいただいたからこそだと思います。スキーは一度きりのスポーツではなく、何度も経験するからこそ上達し、より楽しさを感じる事ができます。今回のスキーすく〜るを越える、より質の高いものを次回に提供出来るようとことん詰めていきます。是非とも次回のご参加もお待ちしております。
(竹中 哲郎)